

# 環境



県北で今何が起きているの？

特集 今、岡山県北に注目ー。

# 持続可能な暮らしへ向けて



見たい 知りたい 自然探検隊  
世界で最も小さいトンボ  
「ハッチョウトンボ」

次の世代へ続く、エコロジーな企業の挑戦  
NEXT STEP  
岡山県環境保全事業団

歩きたくなる西川  
持続可能なまちづくりに向けて

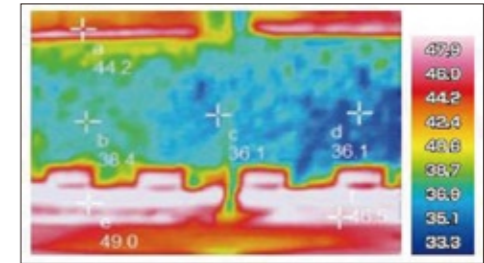
エコロジーに工夫して、豊かに暮らす  
実践! エコライフ

アスエコへようこそ

## みんなで育てよう「緑のカーテン」コンテスト!

自然の涼しさで省エネ!  
地球にやさしい「緑のカーテン」

アサガオやゴーヤなどのつる性の植物をネットにはわせて育てると、まるでカーテンのようになって窓や建物をおおい、涼しさをつくり出します。これは、直射日光をさえぎるだけでなく、葉っぱから常に水分を蒸散する「蒸散作用」により周囲の温度を下げるため。エアコンに頼り過ぎることなく、自然の涼しさで夏を快適に過ごすことができます。みんなで楽しく育て、節電にチャレンジ!ご応募お待ちしております!



平成24年9月19日14時、アスエコサーモグラフィ撮影データ



ゴーヤは栽培面積1㎡あたり約3.5kgの二酸化炭素を吸収します。  
※一年草でのCO2の貯蔵期間が短い参考値です。  
【参考】公害健康被害補償予防協会(1995) 改訂版大気浄化植物マニュアル

2012年のコンテストで約85tのCO2削減になりました!

地球を冷やす「緑のカーテン」  
窓面緑被率70%にチャレンジ!

緑のカーテンの葉っぱの表と裏では約3℃、緑のカーテンに覆われた窓の表面温度は約4℃下がることが知られています。窓や壁の温度を下げて熱の放出を抑えよう。

この事業は、環境省の地域活動支援・連携促進事業として岡山県内の様々な団体と連携して実施します。後援/岡山市・岡山市教育委員会・倉敷市・津山市 協賛/タキイ種苗株式会社  
※掲載写真は「2012年緑のカーテン」応募の中で最優秀賞・優秀賞を受賞した団体や個人の作品です。

参加者募集中!!

優秀な作品には  
素敵な賞品を差し上げます!



- ① つる性の植物を育てて作った緑のカーテンを写真に撮ろう!
- ② 裏面の応募用紙に必要事項を記入し、写真を添付(5枚以内)しよう!  
(応募用紙をアスエコのホームページ上にも用意しています)
- ③ アスエコに直接持参するか、郵送で応募しよう!

応募締切 10/20(日) 必着!!

## 夏の節電 省エネサマーチャレンジ!

ちょっとした工夫も  
立派なエコ活動!!

電量消費が大幅に増える夏!家の中には、まだまだ節電できるものがあります。みんなで夏の節電に取り組みましょう!!



参加者募集中!!

参加方法は簡単!!省エネにチャレンジして1ヶ月の電気代を貼って送るだけ!

●チャレンジ内容

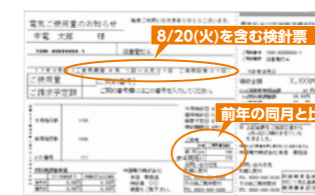
今年の夏、電気使用量を基準年同月量よりも減らすことを目標に、各家庭で省エネに取り組みます。

●基準年とは

省エネチャレンジに参加した年の前年を基準年とします。今年参加した場合、基準年=2012年。この基準年を3年間有効とし、継続して省エネに取り組んでいただきます。

●応募方法

- ①この夏、ご家族で省エネにチャレンジ!
- ②チャレンジ後に8/20(火)を使用期間を含む、電力会社の「電気使用量のお知らせ(検針票)」を確認。



③応募用紙(裏面)に必要事項を記入し、②の「電気使用量のお知らせ」(コピー可)を貼付し、アスエコまで郵送でご応募ください。

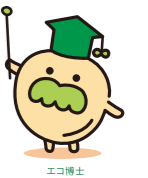
●応募資格

県内在住の方ならだれでもご応募できます。  
※転居などで昨年度の実績がない方は、今回は参加できません。

チャレンジ期間 7/20(土) ▶▶ 9/20(金)  
※8/20(火)を含む前後1ヶ月

応募締切 10/20(日) (当日消印有効)

削減率に応じて、  
エコ博士から  
認定証を送るぞい!



お問い合わせ  
お申し込み先



公益財団法人 岡山県環境保全事業団  
環境学習センター「アスエコ」

TEL: 086-224-7272  
FAX: 086-224-7273

〒700-0907  
岡山市北区下石井2丁目2-10  
http://www.kankyo.or.jp/

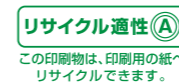
みんなではじめる  
エコマガジン  
2013年夏号

# 環境

TEL 086-224-7272 FAX 086-224-7273

発行日 平成25年6月21日  
発行所 公益財団法人岡山県環境保全事業団  
環境学習センター「アスエコ」  
〒700-0907 岡山市北区下石井2丁目2-10  
開館時間 午前10時~午後6時  
(午後1~2時はお休み)  
休館日 日曜・祝日・年末年始

「環境」へのご意見・ご感想・  
定期配送のお申し込みは



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この印刷には環境にやさしい植物油インキを使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



# 今、岡山県北に注目。 持続可能な暮らし へ向けて

地域には  
環境を生かして暮らす  
知恵と工夫が蓄積されている

持続可能な暮らしに向けて  
地域の人たちが都会から移り住む  
若者たちが挑戦している

岡山県北の  
自然資源を活用した  
彼らの取り組みを紹介する

取材協力 / NPO 法人みんなの集落研究所 首席研究員 阿部典子 氏  
参考資料 / 環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（平成24年度版）」  
岡山県農林水産部林政課「岡山県森林・林業統計（平成25年3月度版）」  
撮影場所 / 美作市上山地区

棚田の復活、震災後の移住：  
県北で起こっていることは

岡山県北、美作市の上山地区をご存知でしょうか。ここには今、全国から若者が集まってきています。なぜこんな現象が起こっているのでしょうか。

かつての上山地区には約8300枚もの棚田が並び、「上山の千枚田」と呼ばれていました。しかし、50年ほど前から人口流出が始まり、やがて集落は高齢化していききました。棚田は手入れする人がいないまま放棄され、草に覆われてしまったのです。

近年、この棚田を復活させようという若者たちが現われまます。彼らは仲間たちと上山に通って草刈りをし、田植えをし、地域の人たちと交流してその力も借りながら、棚田を復活させたのです。

また、ある若者は都会での大学院を途中で辞めて農山村に行き、修行を経て、梶並地区へ移住しました。自分の「現場」で日々活動するも、やはり仲間が大切だと実感。メンバーたちと空き家を改修し、仕事

の情報を集め、都会の若者達が山村に移住できる仕組みづくりを続けています。

今、県北の地で、これからの私たちの生き方を考える上で見逃せない動きが生まれ、注目を集めています。そこにもともと住む人たちが地域の外から集まってきた人たちが、そんな動きを生み出しているのです。

持続可能な生活に向け  
蓄積された知恵と工夫

では、なぜ県北なのでしょう。岡山県を流れる三天河川、旭川・高梁川・吉井川。源流は県北の山あいであり、湧き出る清流が大河となって岡山県を広く潤します。

源流を包み込むように県北一体に広がる森林。その中でも新庄村の毛無山には県下最大級のブナ林があります。ここには絶滅危惧種の動植物も多く生息し、独特の自然環境を呈しています。

豊かな自然に恵まれた県北には、雑木林や農地があり集落が点在します。人と自然が作り上げた日本ならではの景観は、人の働きかけによって保

たれています。ここには、もう一つ大切なものが受け継がれてきました。それは、この環境の中で、ここにあるものを大事に使い、使い終わったものを上手く自然に戻していく暮らし方。持続可能な生活をする知恵と工夫がここには蓄積されているのです。

課題を宝へ変える  
岡山県北地域の再生

自然資源を持続的に管理することは、人が自然に直接働きかけ、その恵みを受け続ける営みであると言え、換えることができます。そのためにも、地域に暮らす人々が、その地域の自然を理解し、協働して取り組みを進めることが重要となります。人と人とのつながりや、人と自然とのつながりは、地域の活力を支える重要な要素であると考えられます。

しかし、岡山県では昭和60年頃から林業後継者が急速に減少しているなど、人と自然との関わり方が変化したことにより、人間の手が十分に行き届かない森林や農地が生じています。

これらの地域社会のつながりや、自然と関わり得る人々の活力の低下は、これからの地域社会における自然資源の管理のあり方に大きな課題を残すと考えられます。持続可能な自然資源の利用のあり方を考えるに当たって、地域に暮らす人々の自然との関わり方をとらえ直すことが必要です。これについて考えるための手がかりとして、環境の保全にかかわるボランティア活動があると考えられます。

荒れてしまった農地も森林も、実は豊かな資源。人の手によって再生できる貴重な宝です。そして、この環境を生かして暮らす知恵も残っています。ここで何千年も営まれてきた循環型の暮らしを見直そうという大きなうねりが、県北に向かっていくのでしょうか。これらの取り組みを進めるためには、そこに関わる人々が地域の自然資源の価値を理解し、その価値を共有することが重要です。では、どんな取り組みが行われているのでしょうか。今回の特集では岡山県北地域での取り組みを紹介します。

# 課題の中に宝を見出す 県北地域 再生への取り組み

過疎化・高齢化が進み、さまざまな課題を抱える岡山県北地域。大切なふるさとを、これからも美しい姿で残せるように。そんな思いで、県北地域の課題と向き合い、地域を支える人たちがいます。それぞれの団体のユニークな取り組みをご紹介します。

県南と県北の定義は、気象庁ウェブサイトの「警報・注意報や天気予報の発表区域の図」を参考にしています。

この土地にしかない豊かな自然と文化を伝える、ユニークな「テーマ型観光」。

かのさと地域（新見市）の豊かな自然や生活文化を生かし、訪れた人といっしょに作り上げる「テーマ型観光体験」に取り組む。「ばあちゃんのお裾分け」「白菜の株主制度」など、ユニークな体験ツアーを通じて、農山村の暮らしや文化を伝える。



**1 かのさとツーリズム**  
〒718-0306 岡山県新見市哲多町矢戸 3475-2  
☎080-5756-5778 <http://kanosato.inaa.net>

森の中をガイドとともに散策し、心身を癒す「森林セラピー」を通じて、新庄村の豊かな自然を伝える。県下最大級のブナ林を有し、豊かな水源を誇る毛無山は、一部が特別保護区に指定されており、貴重な動植物も数多く見られる。



**2 新庄村 森林セラピー協議会**  
〒717-0201 岡山県真庭郡新庄村 2008-1  
☎0867-56-2628 <http://www.vill.shinju.okayama.jp>

温泉だけにとどまらない、本当の湯原の魅力を伝えようと、地元の住民が発案。歴史や文化を盛り込んだ体験交流型イベントを開催している。



**3 湯原っしい**  
〒717-0402 岡山県真庭市湯原温泉 124 (湯原温泉ミュージアム内)  
☎0867-62-3485 <http://www.yubarassyi.com>

見どころは温泉だけじゃない。温泉旅館の女将が立ち上げた「湯原っしい」体験ツアー。まずは地域の人々が「湯原らしい」「素晴らしい」ものを再発見し伝えていくことで、持続可能な地域づくりに挑む。

里山の自然や動植物の生息環境を守り、人々の出会いの場になればという想いで設立。バイオマスタウンとして注目される真庭市に位置し、自然に関する教育や保護・保全活動の拠点として活動。特別天然記念物の「オオサンショウウオ」などが生息する。



**4 津黒いきものふれあいの里**  
〒717-0513 岡山県真庭市藤山下和 1077  
☎0867-67-7011 <http://plus.harenet.ne.jp/~tsuguro/>

里山の生態系を守りたい。自然を愛する人々と自然が会う場所づくり。

地域特産の姫とうがらしの生産を通じて、地域活動のための持続可能な仕組みづくりを行う。高齢者の雇用の創出や、ドレッシングなど特産品の開発、事業収益は地域の配達代行や奥津湖の環境保全活動などにあて、地域へ還元している。



**5 NPO 法人てっちりこ**  
〒708-0431 岡山県吉田郡鏡野町河内 60-8  
☎0868-52-2225 <http://www.mto.ne.jp/n.p.o/>

軽くて、高齢者でも育てやすい。姫とうがらしがつかない、地域が循環する仕組みづくり。

豊かな自然と寒暖差のある厳しい気候を生かし、農業・化学肥料を使用しないアヒル農法などの自然農に取り組む。高齢者の送迎や除雪などの有償ボランティアサービスを行い、安心して住み続けられる場所にするため、環境に配慮した村づくりを行う。



**6 エコビレッジあば**  
〒709-3951 岡山県津山市阿波 1204-1  
☎0868-46-7930 <http://www.ecoaba.org>

世界に通じる。エコビレッジを目指して。あば自慢の「無農薬アヒル米」。

かつての美しい棚田風景を蘇らせるため、全国から「よそ者、若者、ばか者」が集まった。地域の人と一緒に、荒れ果てた土地を復興する活動を行う。暮らしの中に「農」を取り入れ、お金を稼ぐためだけではない、豊かなライフスタイルを提案している。



**7 NPO 法人 英田上山棚田団**  
〒701-2614 岡山県美作市上山 2135  
☎090-2269-9300 <http://aidaueyama.jimdo.com>

限界集落と呼ばれた村に息を吹き込む「よそ者、若者、ばか者」の挑戦。

高齢化集落に若い働き手を呼び寄せ、活性化を図る。耕作放棄地の再生や山林の健全化など、中山間地域での地域おこしに興味を抱く都会の若者たちに、新しいライフスタイルを提案している。農業・林業などの仕事情報や、共同生活情報などを提供。



**8 山村シェアハウス**  
〒707-0204 岡山県美作市右手 160-1  
☎090-1336-6276 <http://sanson-share-house.com>

田舎にふらっと住んでみる!? 働き手となる若者に住居や雇用のサポートを行う。

豊かな資源を生かし、林業から、商品開発・新しい事業など、新たな仕組みを循環させることで、持続可能な地域社会の形成を目指す。村が一括で森を管理し、間伐材を活かした「百年の森林構想」と自然エネルギーへの取り組みで「環境モデル都市」に選ばれた。



**9 株式会社 西栗倉・森の学校**  
〒707-0503 岡山県英田郡西栗倉村影石 895  
☎0120-172-480 (10時~17時 平日・土日祝) <http://www.moringakko.jp>

林業を軸に、村全体で西栗倉ブランドを育てる。自立の道への挑戦。



山村の資源を活かし、  
地域をブランド化

# 若者たちの取り組み。

美しい里山の自然環境と動植物の生息環境を保全し、訪れた人々に出会いと体験の場を提供することを目的としてつくられた「津黒いきものふれあいの里」。雑木林や湿地、溪流などの豊富な自然環境と、そこに生息するオオサンショウウオやモリアオガエルなど貴重で多種多様な動植物とふれあえる、里山をフィールドとした自然公園です。

施設内にあるネイチャーセンターささゆり館で今年4月から館長を務めるのは小林加奈さん。来館者に施設を案内したり、里山体験を企画したり、近隣の学校へ出前授業に出かけたりしています。

アメリカの大学で野生動物について勉強した小林さんは、手つかずの自然を求めて転々としてきました。アラスカ、沖縄、小笠原諸島、伊豆（むこじま）、尾瀬国立公園。「いい所ばかりでしたが自分が長く留まる場所とは思えなかった。ところが、ある時、久しぶりに通りかかった農村で、田んぼが広がる風景にはとじたんです」。人の営みがある里山の自然が、と

ても美しく見えたといえます。「日本人は土地と一緒に生きるという感覚をもっています。日本独特の里山の自然を、人間の生活と切り離して守っていくことは難しい。人の生活様式が変わった今、これからの里山と人との関わりを模索したくて、この施設にきたんですよ」

幅広い世代へ  
里山をもっと身近に  
昔の里山では、間伐材も笹も落葉も大事な資源でした。燃料として薪が必要だから間伐し、間伐によって森林が育ち多様な動植物が育つという循環があったのです。「里

## 津黒いきものふれあいの里 ネイチャーセンター ささゆり館

館長・自然観察専門員  
小林加奈さん (28歳)

岡山県真庭市藤山下和 1077  
TEL 0867-67-7011  
http://plus.harenet.ne.jp/~tsuguro/  
→活動内容はP4の◎参照



山の自然環境を持続させるためには、里山の資源を現代人が暮らしの中で利用する方法を生み出すことが大事です」と小林さん。  
昨年からは始まった、真庭市民と株式会社トシボが協働で取り組む里山整備事業にも引き続き協力。放棄水田をビオトープにする取り組みや薪ストーブユーザーが森づくりをする活動を通して、里山の自立的継続、生物多様性保全を目指します。  
若い世代の来館者をもっと増やしたいという小林さん、「今後は里山資源を活用したアクセサリー作りや夏休みの子ども教室なども企画して、幅広い世代の方々に里山を身近に感じていただきたいです」と話しています。

岡山県の北東端、緑の山々に抱かれた小さな集落。点在する民家の一つから、草刈り機を手にした若者たちが作業に出かけていきます。ここは美作市梶並地区。古民家を借り受けて改修したシェアハウス「岳(がく)」は、農林業をしながら暮らし若者たちの拠点です。  
リーダーは美作市地域おこし協力隊員の藤井裕也さん。梶並の魅力に惹かれ、同じく地域おこし協力隊に参加していた能登大次さんと、2012年春に梶並へやってきました。震災をきっかけに埼玉県から岡山市へ移住していた能登さんは妻子を伴っての移住、藤井さんは単身です。  
7部屋もある大きな家で一人ぼつんと暮らし始めた藤井さんは、部屋をシェアすることを思い立ち、同じように県北で活動していた桑田聡志さんや、知人から紹介された赤星賢太郎さんに声をかけます。  
山村の持つ潜在的な力を生かしながら暮らし始める方法を探したい、梶並の自然や地元の人々と共に暮らしたい。そんな思いを抱く彼らを軸に

## 山村エンタープライズ

- 藤井裕也さん (26歳)
- 赤星賢太郎さん (26歳)
- 桑田聡志さん (27歳)
- 能登大次さん (38歳)

岡山県美作市真殿 3000  
山村シェアハウス「岳(がく)」  
http://sanson-share-house.com  
→活動内容はP4の◎参照



左から順に、能登さん、藤井さん、赤星さん、桑田さん。

山村エンタープライズという若者集団の活動が始まりました。  
田畑や山林を甦らせ  
生活の糧を得る  
最初に取り組んだのは、地元の人から請け負った草刈りでした。地域を見渡せば他にも仕事がありそうだ。耕作放棄地も多いし、空き家はなんと150軒。ここで必要とされる仕事をしながら空き家をシェアハウスにして若者たちが暮らす、というのはどうだろうか？

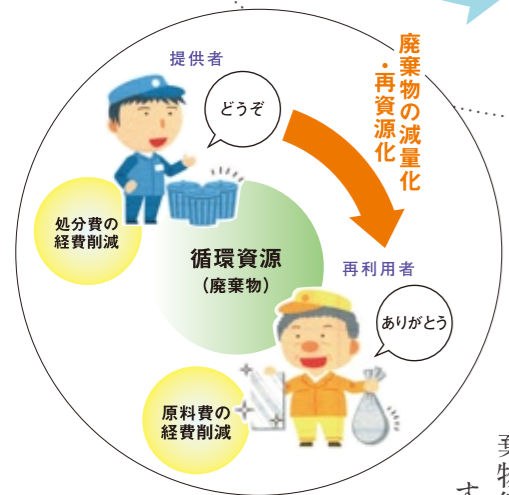
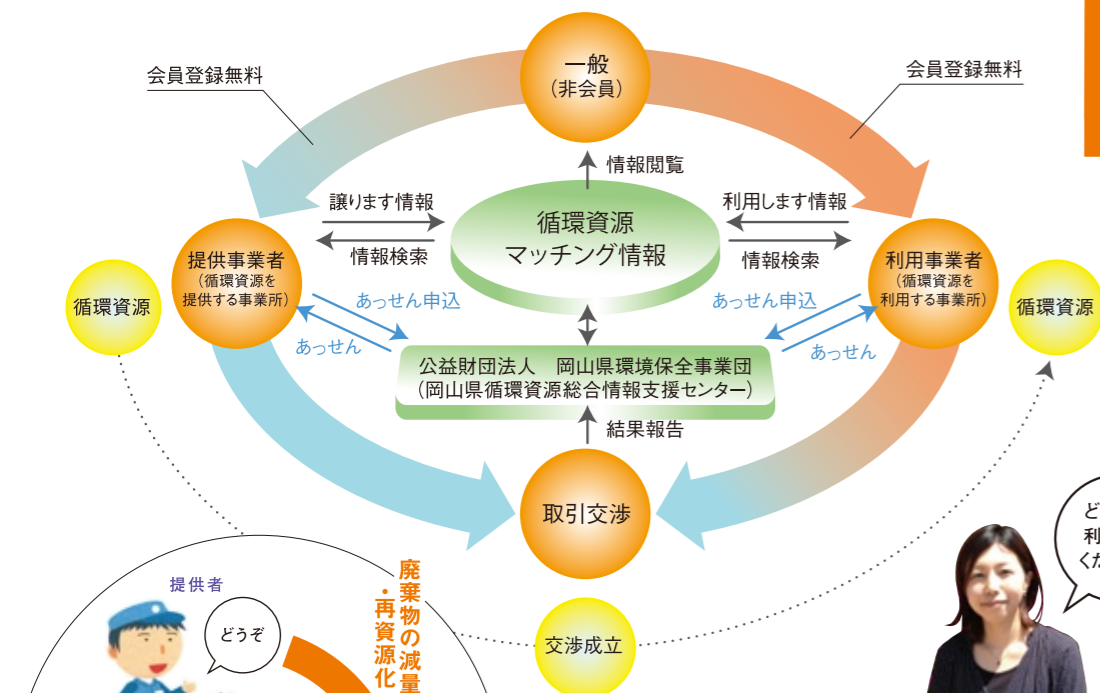
試しに開催したイベントをきっかけに、東京や大阪などからも人が集まり始めます。彼らは梶並でどんな仕事を見つけ

ていきました。草刈り、炭焼き、山林や河川の手入れ、しきみ(シキジ)や柚子やミツマタなどの出荷、和紙作り。3町もある耕作放棄地の背丈より高いスキを刈り、田んぼに戻すことにも成功しました。

春から秋にかけては農業、冬はわら細工や木工という、かつて農村にあった2年のサイクルそのままの生活。荒れかけていた田畑や山林や河川は、手を入れることで少しずつ甦り、豊かな自然とうまく付き合うことで生活の糧も生まれます。豊富な資源を活かして梶並をブランド化したい。その可能性は無限大だと彼らは明るく笑って話します。

次の世代へ続く、  
エコロジーな企業の挑戦

# Next Step



どんどん  
利用して  
ください

環境事業部  
大熊晶子さん

## 資源の循環に向けた取り組みで 持続可能な地域社会をつくる

公益財団法人 岡山県環境保全事業団  
(岡山県循環資源総合情報支援センター)

### 「廃棄物を有効活用 循環資源マッチング制度」

公園のベンチや階段などに、木に似せた資材が使われているのを見たことはありませんか。材料としてよく使われているのは、実は再生プラスチック。使用後の廃プラスチックを再資源化して有効活用し、環境負荷も少なくするエコ製品です。事業活動に伴い、廃プラスチックや木くず、汚泥などの循環資源(再利用できる廃棄物等)が発生します。事業者によっては不要物ともなりますが、別の事業者にとってはエコ製品の素材になるなど貴重な資源である

ことも少なくありません。そこで、循環資源を提供したい事業者と利用したい事業者とをマッチングし、循環型社会づくりを進めようとするのが、公益財団法人岡山県環境保全事業団(岡山県循環資源総合情報支援センター)が平成18年から始めた「循環資源マッチング制度」です。

登録事業者数は261社  
会員登録は無料

資源提供側は岡山県内、資源利用側は日本全国の事業者が無料で登録可能。インターネット上に事業所名、資源地域や量、その他の詳細情報が集約され、登録事業者は自由に検索して必要な情報を収集することができます。

幹旋の希望があれば支援センターが無料で紹介。登録事業所は平成24年度末で



公園や遊歩道などで使われる擬木は、本物の木のような質感で自然とマッチした景観を生み出す環境整備資材。

■お問い合わせ  
公益財団法人  
岡山県環境保全事業団  
環境事業部  
〒701-0212  
岡山市南区内尾 665-1  
Tel. 086-298-2123  
http://www.kankyo.or.jp

## 見たい 知りたい 自然 探検隊

### 【ハッチョウトンボ】 Nannophya pygmaea Rambur



#### 特徴

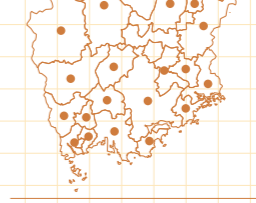
体長: 17~20mm  
分類: トンボ目トンボ科  
日当りのよい湿地のみ生息しており、このような環境は開発や乾燥化でどんどん失われており、生息地は減少している。

#### 生息情報

世界的に最も小さいトンボのなかまに属し、日本産不均翅亜目の中では最も小型で、体長は17~20mmである。体色は、雄と雌で著しく違い、雄は成熟すると、赤くなるが、雌は、黄色と褐色である。幼虫は、平地から山地の日当りのよい湿地に生息し、湿性植物に覆われた部分の小さな水たまりや、わき水の泥の中にひそんでいる。羽化後、その周辺水域を離れない。雄は、細い植物の茎に止まり、縄張りを形成する。産卵は雌が浅い水面を連続打水して行われ、雄が近くで見守ることが多い。岡山県では、5月下旬から8月下旬にかけて見られる。

※日本産不均翅亜目とは…後ろの羽が前の羽に比べて幅広いのが特徴。留まっているときには羽を開いている。代表種としてはオニヤンマやギンヤンマなど。

#### 分布状況



岡山県では、県北部から南部まで点々と分布しているが、産地は限られ、個体数も多くないところが多い。日本、朝鮮半島、中国から東南アジア周辺、台湾、フィリピンからオーストラリアに至る広範な地域に分布する。日本では、本州・四国・九州に分布するが、離島には産しない。

参考文献「岡山県版レッドデータブック 2009」

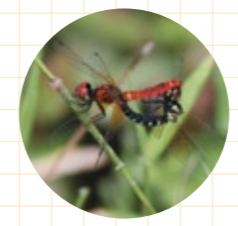


1円玉と  
ほぼ同じ  
サイズです

### 岡山県自然保護センターで ハッチョウトンボに会える!

初心者のための自然観察会  
「日本一小さなおとんぼ。ハッチョウトンボ」

その小ささ、毎年シーズンの初めには「こんなに小さかったっけ?」と思うほど。運が良ければ産卵の様子も見られるかもしれません。



7月7日(日) 10:00~12:00  
場所 岡山県自然保護センター  
(開始時間までにセンター棟に集合)  
参加費 無料  
申込み 不要  
※小雨決行

岡山県自然保護センター  
〒709-0524 和気郡和気町田賀 730  
Tel 0869-88-1190  
休所日 毎週火曜日及び祝日の翌日、年末年始  
開所時間 9:00~16:30  
入場料 無料  
ホームページ http://opnacc.eco.coocan.jp

### 他にもこんな生き物や植物を観察できます!

「初心者のための自然観察会」は、その時期に見られる様々な生き物を観察する会です。入門編なので、どなたでも気軽に参加できます。

7/14 (日)	探してみよう!夏のきのこ 色の多彩さと形の楽しいきのこを見るなら「夏のきのこ」にきまり!毎年見逃せません。	
7/21 (日)	せみ時雨の中の散策 夏の昆虫とともに、せみの仲間を観察しましょう!あなたは鳴き声派? 抜け殻派? それとも成虫派?	
8/25 (日)	サギソウと湿原の草花 センターが誇る湿生植物園で、湿原の代表的な花、サギソウ、ミミカキグサなどについて、様々なツボを教わります!	
9/22 (日)	秋の花の彩り オオユウガギク、アケボノソウ、サクラタデなど、季節の花を観察しながらの、のんびり散策です。類似種との見分け方も教わります!	

さらに涼しくなる裏ワザ

ハッカ油で魔法の水を作ってみよう!

材料

ハッカ油 0.5ml  
エタノール 50ml  
水 200ml

ハッカ油とは、シソ科の植物から作られた精油のこと。これを水に数滴垂らして薄め、よく振って使います。スプレーボトルに入れて使うと暑い夏を気持ちよく過ごすことができます!  
※体に塗布する場合は必ずアレルギーテストをおこなった上でご使用下さい!

こんなふうに使えます!

- 制汗スプレー  
体にスプレーしてひんやり!
- ヘアートニック  
マッサージで頭皮もスッキリ
- 消臭剤  
汗のにおいもノックアウト!
- 入浴剤  
ひんやり涼しいハッカ風呂に
- 安眠アロマ  
枕元に垂らして熱帯夜も爽やかに

食べもので涼しく!

夏野菜には体温を下げる効果があるものがたくさんあります。地産地消、旬産旬消を心がけて健康的な夏を過ごしましょう!

トマト、なす、きゅうり、とうがん など

着るもので涼しく!

素材を工夫して暑さ対策!

- 麻 吸湿性、放湿性、通気性に優れている。
- 綿 やわらかくサラッとしていて、吸湿性、放湿性が高い。
- 絹 吸湿性が綿の1.3~1.5倍あり、放湿性は約1.3倍。

実践! エコライフ

エコロジーに工夫して、豊かに暮らす

夏を地球に優しく快適に! 冷房以外の方法で涼しくなろう!

暑い夏、つい冷房に頼りがちですが、工夫次第で地球に優しく涼を感じることが出来ます。ちょっとした心がけで省エネにもつながるエコな涼み方、取り入れてみませんか?

展示 親子で遊ぼう! ~木のぬくもり・おもちゃ展~

2013年5月8日(水)~5月31日(金)  
|協力| (株)ハウジング山陽、JUON NETWORK、日本クマネットワーク、操山公園里山センター

アスエコで行ったイベント、展示、講演会などをレポート! どんな学びがあったのかをご紹介します。

ツキノワグマには、固い毛と柔らかい毛の2種類があってびっく!

しっかりした作りのお家に子どもたちも大興奮!

環境学習センター「アスエコ」では5月に木のおもちゃを中心とした展示を行いました。木材を使ったジャンглジムやお家、積み木など、触って遊べるおもちゃが大集合! 近年、おもちゃの分野では、間伐材を積極的に使うなど、環境に配慮した「安心・安全」なものが増えてきており、子どもたちが楽しく遊んだのももちろん、大人も木の香りに癒され、木という素材の素晴らしさ・大切さを感じられる展示になりました。人々と森林の関わり方を紹介したパネルやツキノワグマの毛皮もあり、木のぬくもりを楽しみながら、日本の森について、そしてそこに暮らす生き物について考えるきっかけになったのではないかと思います。

メルマガ会員になりませんか?

すぐに役立つエコ知識や岡山のエコなイベント情報が盛りたくさん! 今すぐ登録して、得しちゃおう★

QRコードの読み込み、または下記アドレスに空メールを送信してね!

a+1258u@dmq.jp

毎月、岡山のエコで知らぬ情報をお届け!

アスエコかわらばん

vol.2 5/31発行 岡山の街中から身近なエコをお届け!

vol.3 7/31発行

「アスエコかわらばん」は、岡山県内のエコな活動や暮らしの情報を発信する、環境啓発フリーペーパーです。

第1回 歩きたくなる西川

持続可能なまちづくりに向けて

持続的に受け継がれ、活用される西川の自然環境

季節の花や催しが楽しめる市民の憩いの場、西川緑道公園。岡山大学の助教であり、市民参加の研究に日々取り組んでいる岩淵泰さんにご寄稿いただき、4回にわたって連載します。西川を通じて「持続可能なまちづくり」の手がかりをさがってみましょう。

「まちづくりの実験室」西川緑道公園の魅力

現在、岡山市中心市街地の西川緑道公園(以下、西川とする)では産官学による協働のまちづくりが展開されています。例えば、岡山市主催のハーモニーフェスタ、NPO法人タブラサのキャンドルナイト、飲み歩きイベントのハレノミー、満月バー、有機生活マーケットなど多岐に渡ります。様々な団体がチャレンジをする西川は、**まちづくりの実験室**と呼べるかもしれません。

まず、西川まちづくりの特徴を挙げてみたいと思います。

一つ目は、若者が中心となってお洒落でエコロジーなライフスタイルを追求していることです。

二つ目は、安い物を買うことよりも、安心や安全、健康、美しさ、明るさ、雰囲気、楽しさなど、生活の質を重視していることです。

三つ目は、西川ではみんなが交流し、意見交換をする公共空間となり、サロンの性格を帯びていることです。

四つ目は、彼らは、ソーシャルメディアを活用し、同じ関心や興味を持っている仲間を集めていることです。

しかしながら、西川まちづくりがイベント主義に陥ってはいけません。若者のアイデアと手作りで進められている点を評価していますが、持続的なまちづくりには、広く情報を発信するだけではなく、西川境界で生活している人々の巻き込みも必要だと言えます。

西川緑道公園のこれから

さて、歩きたくなる西川とは、水と緑など岡山の魅力がぎゅっと詰まった空間のことです。それは、岡山の誇りであり、宝物だと言えるでしょう。ただ、まちづくり関係者に話を聞いてみると、暗い電燈、騒音、隣人関係、道路規制などまちづくりの課題は尽きないようです。それでも、人々が惹きつけられるのは、西川に暮らしの伸び代を感じているからでしょう。若者が集まるのも、自分の能力が十分に発揮できていることをまちづくりを通じて感じられるからです。

連載では、西川が、用水路だけではなく交流のエッセンスになっていることを取り上げます。そして、2014年ESDの世界会議に向けて、岡山におけるまちづくりの先進性とは、**世代を超えて受け継がれた自然環境**を、時代の変化に併せて、**市民が持続的に活用していること**を読者と一緒に考えたいと思います。

岡山大学地域総合研究センター AGORA 助教 岩淵 泰 Iwabuchi Yasushi

福岡市出身。熊本大学博士課程修了(公共政策)。フランス・ボルドー政治学院留学。カリフォルニア大学バークレー校都市地域開発研究所客員研究員。2011年11月より岡山大学現職。専門/フランスの地方分権、参加民主主義論、まちづくり